

## ■第4回策定会議で出された意見の振り返り

項目		意見の内容
全体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字数を極力減らし、イラストを多く掲載</li> <li>・重要な箇所を強調する（赤文字するなど）</li> <li>・注釈マークを分かりやすい表現に変更</li> </ul>
表紙		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動計画を考えてもらうような表現を入れる ⇒●「1.避難場所を決める」→「1.避難場所や経路を考える」</li> <li>・インデックスにページ数を追加</li> </ul>
1 災害から身を守る	災害特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標高」を「海拔」に統一</li> <li>・和地、伊佐見の沿岸部も津波の危険性を強調する</li> </ul>
	地震・津波	<p>【地震】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害想定図の液状化範囲を分かりやすく表現</li> <li>・震度分布図に「第4次地震被害想定」に関する記述を追加</li> <li>・最新の想定震度（内閣府発表）を掲載（西区の最大震度7）</li> </ul> <p>【津波】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定津波浸水域図を最新情報（内閣府発表）に変更し、「第4次地震被害想定」が発表される旨を追加</li> <li>・サイレン吹鳴パターンの修正</li> <li>・「津波を生き抜く7ヶ条」のうち、東日本大震災の教訓である④～⑥を強調 ⇒●東日本大震災の教訓を赤字で強調</li> <li>・枕元の非常持出袋への蛍光シールの貼付や固定の必要性を追加</li> </ul>
	風水害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花川、伊佐見川沿いの注意を喚起する内容の追加</li> <li>・風水害時の早めの避難について強調</li> </ul>
	土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害110番に南土木整備事務所西土木グループを追加</li> </ul>
	避難の心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を守る最低限の行動」を分かりやすい表現に再考（最善の行動をとる）</li> </ul>
	市指定避難所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「○」と「緊」の記号の説明を追加</li> <li>・防災マップとの整合性を図る（地区境などの表現の統一）</li> </ul>
2 災害に備える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害用伝言ダイヤルの「ガイダンス」を「音声案内」に変更</li> <li>・地震保険や耐震補強の紹介を追加 ⇒●耐震補強は冊子に、地震保険については別冊に掲載</li> <li>・事前の備え（土砂災害編）を追加</li> <li>・「火災発生時の対応」のステップ2「火が横に広がっているうち」は一概消火可能とは言えないため削除</li> <li>・災害時要援護者と自主防災隊との関係の明確化 ⇒●共助のページとし、地域活動の一環として自主防災隊の活動と その中での災害時要援護者を支援について記載</li> <li>・災害時要援護者支援事業との連携について記載 ⇒●別冊に掲載</li> <li>・非常持出品に「手袋」「スリッパ」「生理用品」「携帯トイレ」を追加</li> <li>・非常持出品は津波避難時に配慮して最低限のものに厳選</li> </ul>
防災マップ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水面の着色</li> <li>・舞阪保健センターの「救護病院」を「応急救護所」に修正</li> <li>・公衆電話の位置を表示 ⇒●民間施設であり位置変更の対応が難しいため掲載しない 別冊に位置を確認できるインターネットページを紹介 （参考）「公衆電話設置場所検索」（NTT西日本）でインターネット検索が可能</li> </ul>